

## 第4章 現地調査に見る AIOU 活動の諸側面

小川 鑛一

アッラーマ・イクバル・公開大学（ALLAMA IQBAL OPEN UNIVERSITY、AIOU）は、一般大学レベルの教育はもちろんのこと農村地域の男子、女子に対する基礎的でしかも実際にすぐ役立つ実用教育など多義にわたる遠隔教育を行っている。さらには、文盲率の高い農村地域の女性に対する読み、書き、算数を教育目的とする識字教育についても行っている。AIOU は、遠隔地教育を目的とする大学であるからラジオ・テレビ放送を教育の手段として用いている。そこで使われる放送授業番組を制作するため、AIOU は教育工学研究所を所有している。本章では、以上述べたアッラーマ・イクバル・公開大学の活動の側面と現地に見る教育現場視察の一端について述べる。

### 4.1. 基礎実用教育プログラム

パキスタンの人口の75%は農村地域に集中している。その大多数は文盲もしくは読み書きが幾分できる程度の人々である。AIOU はこうした農村地域の人々の日常生活を改善し、彼らの教育を援助することを目的とした基礎実用教育プログラムを開発した。そのプログラムは農村地域の人々の教育にかなったものとして、現在実行に移されている。

#### 4.1.1. 基礎実用教育プログラムの目的

ここでいう基礎実用教育プログラムというのは、次のような内容である。

農村地域の人々の経済状態、健康と生活状態、社会条件を改善することが本教育プログラムの目的である。これは日常生活で実用かつ実際に役立つ教育を実施するというものである。同じ国内にあっても文化の異なる住民が多く住んでいる。そうした地域住民に対して有益な教育を行い、それを広める活動も行う。AIOU 地方事務所から遠く離れているため面接授業や教育相談が受けられない農村地域の人々に対して、出先機関を通してそれが可能となるように努めている。農村地域の人々が要望するコースを増やし、それらが彼らに適しているかどうかを評価するためのフィールド・テストも実施している。農村部を発展させるため政府と民間機関が協力しあい、その地方の官民諸施設を教育・学習センターとして利用できるようにも努めている。

#### 4.1.2 学習方法と教育の実際

本教育プログラムによる教育は一般教師による面接授業は行わないことになっている。学習コースは大学側がまとめて準備し、簡単でしかも低価格のメディアを用いている。学習は遠隔地

農村地域で15～25人のグループを単位として行われる。各学習グループでは、そのメンバーの一人がグループリーダーとしての役割を果たす。その人は学習会に参加する人を集めたり、コース材料を提示したりする役割を演じる。そのコースは、“ユニット”に分けられている。一回の学習会で必要な教育資料と教育機材はそのユニット内に納められている。本プログラムの教育方法と内容とは次のようなものである。

学習にはカセット・テープ・レコーダーが用いられるが、そのカセット・テープには学習が行われる地方の言葉を使い学習内容が録音されている。そのため読み書きのできる人はもちろん、文盲の人にとっても学習内容は理解できる。

録音されているテープ内容に合わせて描かれた図や表のフリップ・チャートが学習の理解を高めるために用いられる。これはカセット・テープ・レコーダーの音声による学習とともに視覚による情報も同時に受講者に与え、学習が集中してできるとともに学習内容も容易に理解できるようにするためである。図1はそのカセット・テープ・レコーダーとフリップ・チャートを示す。学習者にはそのフリップ・チャートの挿絵を写した印刷資料が配布される。学習者はこの印刷資料を自分のために持ち帰ることができる。その資料は彼らがそれを学習中に参照したり、後日それを見たとき学習内容を思い起こすためのものである。

実験、実演、演示、演習などで使用する各種の機器、模型、各種表、写真、実物など学習機器も準備されている。学習会やそのユニット紹介準備のために忙しいグループリーダーを援助するためにユニット・ガイドがついている。

図2はユニットの学習風景を示す。こうしたコース学習会においては、そのコースのグループ・リーダーがまず当日学習する内容を紹介する。続いてオーディオ・カセット・テープを始動する。テープによる説明が始まると、この間、彼/彼女がフリップ・チャートをめくり、必要がある場合にはテープを止め討論あるいは解説を行なう。テープによる学習が終わると、グループ・リーダーは印刷資料を配布する。さらにフリップ・チャートの各挿絵を通して復習が行な

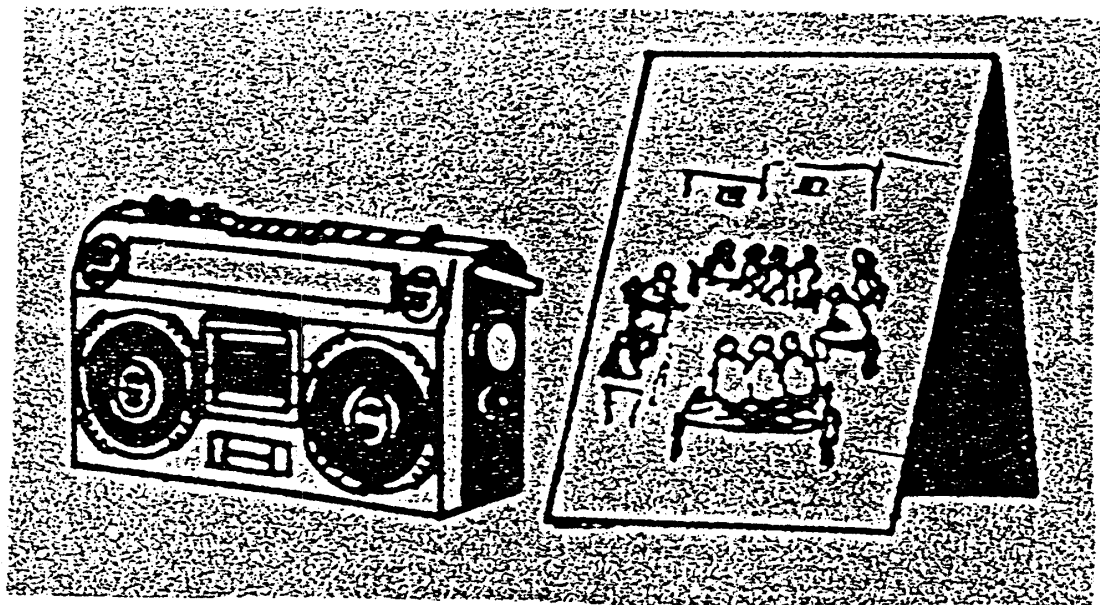


図1 学習に使用するテープ・レコーダーとフリップ・チャート

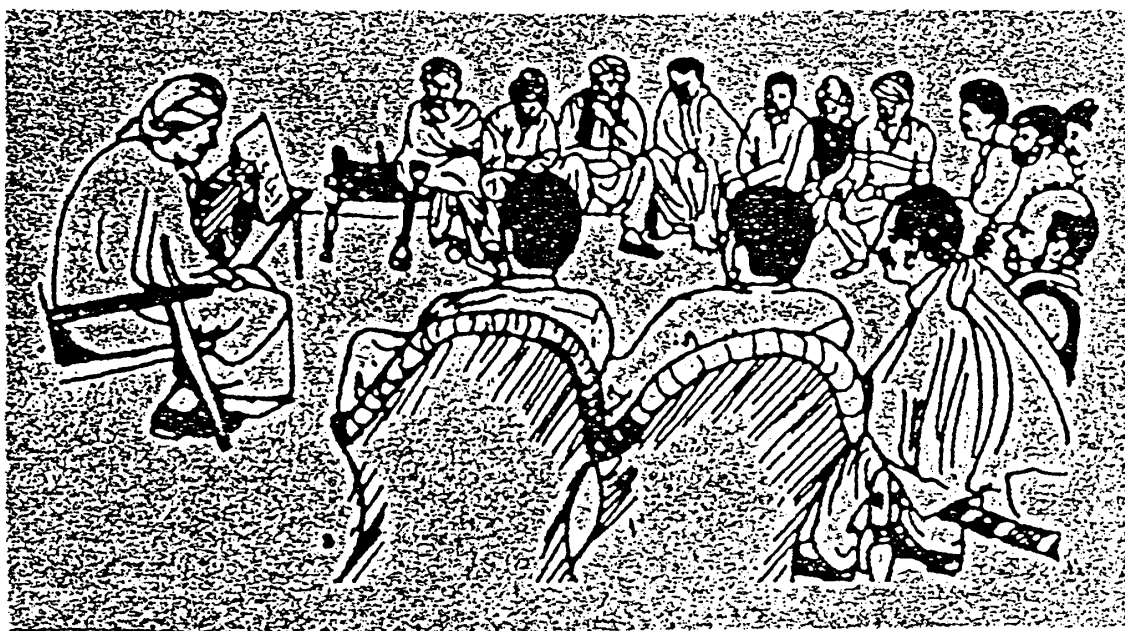


図2 学習風景

われる。グループ内で検討したが解答が得られないような質問があると、グループ・リーダーはそれを記録しておく。学習会終了後、その質問はそのときに出た他の諸問題と共に簡単なレポート形式にまとめられ、コース制作者にフィードバックされる。

さて、コース開発者は、こうした学習コースを開発するために学習会が行なわれる農村地域の人々の属性を調査するという作業も行う。コース概要の予備テストとコース材料の試験的なテストは、コース制作あるいはその発表がなされる前の準備段階で大々的に行っている。

一つのコースには、6 学習グループと1 人の補助監督者がついている。この補助監督者は全てのコース学習会に参加して学習の進捗状況を監視・監督する。

農村地域の5 人の補助監督者に対し、大学が採用した1 人の野外指導者が配属される。この方法によると1 人の野外指導者は600 人の学習者の学習過程の面倒を見ることになる。

以下に示すコースは、農村部男性あるいは女性学習者のために提供される学習会の学習科目である。「家畜の管理」、「村の電気」、「家庭での家禽の取扱」、「農業の名声」、「子育てI」、「子育てII」、「衛生設備」、「裁縫」、「救急対策」、「よりよい収穫(バラニ地域に対し)」、「よりよい収穫(灌漑地方に対し)」。

・参照資料：BFEP(BASIC FUNCTIONAL EDUCATION PROGRAMME)

#### 4.2 女性のための実用識字教育

パキスタンにおける女性の文盲率は高く、そのことがさらに文盲な家庭を生み出す結果となっている。したがって、女性に対する実用識字教育の必要性が強く望まれている。

AIOU が実施している実用基礎教育番組は、文盲の人を対象にした読み書き技術に限ざられていることがしばしばある。その結果、実用識字教育番組を受講して数カ月もすると、受講者は再び文盲の世界に逆戻りしてしまうことがある。こうしたことが起こらないよう、学習者の学習能力を素早く高めると同時に、教育に対する興味を彼女らに抱かせ、文盲へ後戻りしない

よう手助けを与える番組が望まれている。

女性学習者に対する統合実用識字プログラム (Integrated Functional Literacy Programme for females IFL) は、上述した方向へ向けての努力を払い制作した番組である。それは学校に行けない少女達、学業を一旦断念した少女達に対して幅広く行なう教育である。この番組の受講対象者には地方に住む若い家庭の主婦も多く含まれている。

#### 4.2.1 女性のための実用識字教育内容

農村地域や準市街地域に住む分別ある一般女性や青年期の少女達に対して、識字と数や量の概念、思考能力を身につけさせるための教育を提供することが本実用識字教育の目的である。この教育を受けた彼女らがさらに進んだ教育を受けたいと望むなら、その機会は与えられている。

女性に対する実用識字教育の内容には次のようなものがある。

- (1) 刺繍、バスケット製造法、編み物などのように、家庭の収入を増やすための技能訓練の機会を提供する。
- (2) 読み、書き、算数の基礎教育や技能訓練において、教育効果が早くあがるように、次のような教育・訓練用教材が準備されている。a. ウルドウ語入門、b. 書き方練習ワークブック、c. 算数の基礎教科書
- (3) やさしくて興味を湧かせ、学習者の要望を満たす読み物的な補助教材として、a. 私たちの文化遺産、b. 地域民話、c. 私たちの家族、d. 私たちの農業、e. 生活、f. Quran-e-Pak Nazira の教育などが準備してある。

なお、学習者が望むなら、実用基礎識字教育ならびに数と量に対する思考能力訓練、学習者が希望選択する必要度の高い技能訓練、健康な生活を送るために必要な知識コースといった内容のコースも準備してある。

#### 4.2.2 受講対象者、学習期間、教育資料について

受講対象者は正規の教育を受けていない10歳から45歳までの女性を対象としているが、10歳から20歳までの少女が望ましい。

受講期間は、次のとおりである。

- ① 識字、算数の基礎教育と技能訓練は6か月である。
- ② クラスⅢ要目（シラバス）と技能訓練は4か月である。
- ③ クラスⅣ要目（シラバス）と技能訓練は4か月である。
- ④ クラスⅤ要目（シラバス）と技能訓練は4か月である。

実用識字教育の分野には、AIOU で出版した次のような教科書がある。

「ウルドウ入門書（読み方）」、「ウルドウ・ワークブック（書き方）」、「算数の基礎（数量思考法の基礎）」。

受講登録を行った女性学習者に対しては、「バスケット作り」、「刺繍」、「裁断」、「裁縫」、「料理」、「編み物」などの教科書が準備してある。以上のほか、農村地域の人々が提案した技能的内容の教科、あるいは技能に関する訓練科目もある。

## 第4章 現地調査に見る AIOU 活動の諸側面

クラスⅢ、Ⅳ、Ⅴに関する教科には、初等クラスの正規教育システムで規定している教授細目に従い、a.ウルドゥ、b.算数、c.社会学、d.イスラム教、e.科学などの科目がある。

### 4.2.3 教育の方法

女性の学習者に対し実際に行う教育方法は、教科書、黒板、チャートなどの教材を用いた面接授業およびカセット・テープ・レコーダーを使用した授業である。全学習センターにはパート・タイムではあるが女性教師を採用し教育効果を上げている。さらに、そうした教師に対しては教育方法論の訓練を一週間行い教育指導力の向上を図っている。

このプログラムは、1986年8月にラワールピンディの準市街地と農村地域、それにイスラマバードの10か所の学習センターにおいて開設された。この試験プロジェクトの期間は3年で、各々の教育コースは18か月2サイクルからなっている。もしうまく機能すれば、大学が実施する実用教育の一環として、パキスタン各地において繰り返し施行される予定である。

・参照資料：Integrated Functional Literacy Programme for females

## 4.3 地域個別教育指導事業

### 4.3.1 地域個別教育指導事業

特定の教育を普及させるための地域教育指導事業がある。これは、遠隔教育システムのもとで統一的に学習効果向上を図るという教育事業の一環であって、チューター(個別教育指導員)を採用し学習者に対する教育援助を組織的に実施しようとするものである。この目的のため、アッラーマ・イクバル・公開大学は一連の地域事務所(サブ事務所も今は含む)をパキスタン各地に設けた。地域事務所は学生との接触を密接に計り、彼らに学問上のガイダンスを行うため教師と学生との接点の場所である。また、学生たちの宿題の記録を保管するという役割も果たしている。

学習センターで行なう授業/ガイダンスと同様に、パートタイム指導教師は学習者に対する教育と学習に関する一般ガイダンスも行なう。地域事務所は、面接個別指導会で使用する教育機材を管理する場所であると同時に、その地域によって組織された最も重要なサービス拠点ともなっている。

### 4.3.2 地域事務所の役割とチューターによる学習援助

各学生はチューターにつく。ここでチューターは大学の教師や専門家であって、学生に対し学習指導を定期的に行い、宿題やレポートの進捗状況を評価する役割を果たす。

地域事務所は、国の祝日を祝ったり、学生クイズ大会を開催したりするという文化的行事や活動も行なう。また、教育指導や試験を行なうために必要な諸施設や設備の確保あるいは教育職員を手配し、試験を最終的に実施するためにあらゆる準備を整える。こうした役割も地域事務所の仕事なのである。

町、市、地域の教育団体は学生に面接授業の機会を与えている。チューターに対しては同一グループ内の指導者との打ち合わせ会、ガイダンスを行っている。また、個別教育指導者会議を毎週または隔週に開いている。学生、教員、国の役職者、地域代表者、選ばれた市民からなる

地域諮問委員会の委員から出された各種の問題点は、それぞれの個別機関を通して解決するか、教育上の支援を受けたり情報のフィードバックを行い問題解決を図っている。

実技/技術コースの学習者は、チューターの指導およびセンター助手より指導を受けるため技能学習が行える教育設備、道具類の諸設備が整っている学習センターへ通うことになる。教員教育コースの場合は、実際に教室で行われる授業と同じような雰囲気、授業準備と教育実習を行う。

こうした研修会の活動を通して教育内容や実技の方法を習得する。同僚チューター達は彼らを監督しまた教育の評価も行う。その結果に基づき、チューターは学生に対するガイダンス、その形式、教育方法、授業料納付方法などを学ぶと同時に、実習設備などに関するいろいろな情報を得ることが出来るのである。

アッラーマ・イクバル・公開大学から地域事務所の所長へ、そして11か所の地域学習センターの所長、地域チューターへと連絡事項は伝えられる。地域学習センターの教育指導者は学習センター活動の調整、地域事務所の渉外、設備と教材の管理、大学出版物の取り扱い、入学者の受け入れなどの準備を行う。上級チューターはチューター達の教育監督、チューターの訓練と学習要領の説明、チューターの指導状況を監視する。また、補助チューターを確保するという役割もある。各チューターは学生の教育指導、宿題のコメント、宿題の評価、点数付け、添削、学生の学習能力の記録、面接指導などを実施する。また、各チューターは地域事務所へ学生の学習状況を連絡したり、学習コースを調整する係へコース内容の問題点をフィードバックする。さらに地域事務所へ学生の学力を報告したり、実際の会議や研修会を開催したりもする。

・ 参照資料：REGIONAL TUTORIAL SERVICES

#### 4.4 教育工学研究所

アッラーマ・イクバル・公開大学に所属する教育工学研究所 (INSTITUTE OF EDUCATIONAL TECHNOLOGY、IET)は1974年に設立された。その年、アッラーマ・イクバル・公開大学は、国の法令に基づき遠隔教育のための革新的研究所を設立した。それが教育工学研究所であり、教育の”公開”という AIOU の哲学概念を意味づける活気に満ちた一付属研究機関として貢献している。一般大学の学生はキャンパスにやって来て学ぶ。これに対し開かれた教育システムのもとで学習する AIOU の学生は家庭や職場で学ぶことができるのである。

AIOU と一般大学とのこの差を埋めることは、適切なマスメディアと印刷資料でお互いを合い補い、教育に関する今日の技術を用いて初めて可能となった。その意味において、壁のない大学 AIOU は、大学の公開を象徴的に表しているといえる。AIOU におけるこうした教育技術の開発研究は教育工学研究所に委ねられている。

研究所の役割と機能を箇条書きで示すと、次のようである。

- (1) 各種教育コースに対応するラジオ、テレビ・プログラムを開発、制作する。
- (2) 学習に役立つ音声カセット、オーディオ・ビジュアル、印刷教材を開発する。
- (3) オーディオ・ビジュアル装置の有効利用と管理の面から、大学の地域事務所と地域学習センターを支援する。

- (4) 放送教育番組、教育資料の開発に関し、外国政府、民間団体に対して指導と助言を与える。
- (5) 上述した教育資料の開発と制作に関して各種団体と交流し協力を行う。
- (6) 教育工学に関する研究と指導を行う。

#### 4.4.1 教育工学研究所の役割

##### (1) コースチームの形成

教育工学研究所は大学にとり重要な機関であって、大学の研究体制内でその役割を果たしている。学生は印刷教材と各種オーディオ・ビジュアル教材とを組み合わせ、それらを補足あるいは相互に合い補って学習を行う。こうした学生の学習に応えるために、教育工学研究所はすべての大学の教育部門と教育上の活動に関して密接に連携しあい活性化を図っている。それゆえに、教育工学研究所の代表者からなる部門コース委員会によって、コースの提案がなされたなら、直ちにコース・チームを構成する委員が選ばれる。教育工学研究所の職員は、このような方法で他の教育部門の同僚と共にコース・カリキュラムや時間割の作成作業に貢献する。その他に、例えばラジオ・テレビを利用した教育の強化が必要かどうかなどコース内容の検討作業に関する支援も行っている。

##### (2) 教育コースの承認

提案された全ての教育コースは、教育計画・開発委員会 (Academic Planning and Development Committee)、研究・教育工学委員会 (Research and Educational Technology)、教授会 (Boards of Faculties)、経営・学術研究・評議会 (Executive and the Academic Councils) で検討される。以上の機関のうち後者二つは大学の最高学術研究機関と経営当局である。そのうちの研究・教育工学委員会は、映画、放送台本を制作する上で法律に基づき大学に忠告でき、教育工学研究所とは特に関係が深い組織である。また、この機関は部局に学部長と委員長を置く代わりに副学長が長となっている機関である。この教育工学研究所には通信部門、ラジオ部門、テレビ部門、映画部門の4つの部門があり、各教育メディアには指導教官がついている。指名されたパキスタン・テレビジョン放送協会のチーフ役員は、その委員の一人である。

##### (3) 学習番組の制作

上部組織から正式な番組制作の許可が下りると、コース・チームは学習番組の開発に取りかかる。放送用台本の制作、通信テキストの開発、教材執筆などが同時に始められる。部局の教員は、それらのコース用に書かれた原稿を遠隔学習に適する自学学習用通信教材に編集する。

一方、教育工学研究所に所属する番組制作担当者は、それらの教材を基に実際に制作する台本を作成する。教材が放送教育用に編集され、授業目標がデザインされると屋内、屋外での収録準備が整うのである。教材が印刷された後、放送番組の制作は関連コース・チームと打ち合わせを行いながら収録が続けられる。そして、当初詳細に計画した教育目標が達成出来るような学習番組へとまとめ上げ、さらに他のコース分野との整合性・関連性を確認する。

##### (4) 放送学習コースの開講と定期的な見直し

ある学習コースの開発と制作が完了すると教育工学研究所の任務が終るというものではない。そのコースの放送が開始された後、コースを制作したチームは受講した学生側から教育上のフィードバックを受取り、それを基に教材の見直しとそれに関するいろいろな打合せ会を持

つのである。大学の研究統計部門から出される勧告については、教育計画・開発委員会が綿密にそれについて調査する。再び、そのコースを改善するかどうかの見直し作業を定期的に行い、上部組織が最終的に改善の請求を行う。

教育評議会の勧告を基に、再度コース・チームが編成される。その時点でそのコース第一回のサイクルが完了する。この全過程を終えた時点で、教育工学研究所、印刷教材制作部門、編集部門、地方サービス、研究センター、委員会、上部組織に対しアドバイザーとして尽力をつくした多くの外部組織、関連教育団体など大学に貢献した諸団体が一団となつての放送学習番組の制作という目的が果たされたと言えるのである。こうして出来上がった放送学習番組は、学生が実際に教師の授業を受講しなくても彼ら自らがコース教材を利用して学べ、それが理解できるように工夫されている。

#### 4.4.2 教育工学研究所の設備と職員

職員事務室は全て建物の一階にある。研究所内にはテレビ・スタジオ、ラジオ・スタジオ、写真・スタジオ、アート・スタジオ、講堂などがある。

教育工学研究所の番組制作部門には放送関係業務に経験を重ねたプロデューサーがいて、放送とは直接関係のない資材・材料などの準備と管理を行っている。研究所の技術部門には上級技術者一人と優秀な技術員チームによって運営されている。アートとグラフィック部門では上級デザイナーの監督のもとに作業が進められている。この部門で彼はイラストレーター、パターンに字を書く書家、写真家、編成助手、大工、ペンキ屋などのような専門作業員の指揮をとっている。教育工学研究所の全体的な統制はラジオ、テレビ、映画について広範囲に渡り経験を積んだ専門家が指導者となって監督している。

#### 4.4.3 制作番組数

AIOU には平均60,000人から70,000人の学生が在学している。今では70の異なるコースが新しく毎年開設されている。開設リストには新しいコースが追加されるため、旧科目予定表を改訂したり、新しく作成する作業も行う。現在はテレビ番組の収録に一階のみが使用され、一度に一つの番組が制作される。放送教育番組制作は、他の一般向けラジオやテレビ番組制作と比べ時間がかかる。こうした状況にもかかわらず教育工学研究所では60から70のテレビ番組、150から200のラジオ番組を一年間で制作している。制作コストの概略は50分番組のテレビでRs.23,000~Rs.24,000、15分番組のラジオでRs.2,000~Rs.3,000である。

教育工学研究所のテレビ・スタジオは、ごく最近建設された。それ以前は、AIOU で構想をねり開発したテレビ番組をパキスタン・テレビ放送局のスタジオで収録していた。パキスタン・テレビ放送局で1975年から1982年に至るまでに収録した450のテレビ番組は、教育工学研究所が構想を立て開発を行ったものである。分野の異なる教育関係の部局がそれらの番組を制作するために支援を行った。ラジオ・スタジオの方は AIOU にすでに存在していたので、すでに2,000以上にわたるラジオ番組を制作している。それらの番組構想と開発は AIOU で実施し収録を行ったものである。



[Dr. G.A. Allane の言葉]

ラジオあるいはテレビで一人の素晴らしい講師が、ある日、同時刻に、自宅にいる何千もの学生に向かって講義を行い、それを見ることが出来るということは大変素晴らしいことである。実際にその講師が目前にいるような感じで講義が受けられるような教育が必要である。すなわち学生と講師が質疑応答のできる教室にいて、講義が理解できないところを何回でも繰り返しその講師に説明がしてもらえ、それに対する質問を自由に学生が尋ねられる教育や演習が遠隔地にあっても行えることが望ましいのである。

バランスの取れた食物のように、私は学習番組はあらゆる種類のメディア（オーディオ、ビデオ、印刷教材）を用いるべきであると考えている。恐らく、ある者は放送を聴かない方が興味が湧くかもしれない。また、ある者は放送が役に立ち、その教科が記憶の奥深くに残るという場合もある。しかし、最も大切なことは、われわれが学生に与える教授内容であることに注目してほしい。

・ 参照資料：INSTITUTE OF EDUCATIONAL TECHNOLOGY

#### 4.5 農村部に見る遠隔教育の現状

調査班メンバー：佐賀、後藤、麻田、小川、田代、岡田

調査後発班（小川、田代、岡田、日程：1990.12.17～1990.12.23）

アッラーマ・イクバル・公開大学（Allama Iqbal Open University, AIOU）は1974年に設立された遠隔教育専門の教育機関で、開学当時の学生数は約500人であった。現地調査を行った1990年12月現在、約12万人の学生が在籍するというマンモス大学に成長した。この公開大学は、公開大学という名の通りいつでも開かれているという大学である。AIOU の学生は向学心の旺盛な学生が多いが、職業と学問を両立させる関係上、卒業率は一般大学に比べ極めて低い。AIOU の卒業率は35パーセントといわれ、日本の放送大学の8パーセントに比べかなり AIOU のそれは高い。

AIOU の主キャンパスはパキスタンの首都イスラマバードにある。その広大なキャンパスの中に4階建の建物が4棟と番組制作を行うスタジオをもつ教育工学研究所が1棟ある。そのほかキャンパス内に図書館、印刷教材の制作を行う専用の印刷工場、製本所、印刷教材や通信指導問題を学生宛に送れる専用の郵便局などを有している。

午後3時頃、見学のために印刷教材制作棟を訪れたが運悪く丁度停電となり不十分な見学しか行えなかった。当地では午後3時で仕事終了するため停電と同時に職員のほとんどは帰宅する。一説によると作業を一斉に終わらせるために、停電は午後3時頃意識的に行うとも言われている。教育担当と教材制作担当の2人の部長に人気のない作業所の案内と設備の概要を説明していただいた。

制作棟見学：放送授業番組「統計学」を撮影した直後のスタジオとそこで使用されたセットを見学した。写真1はそのときのテレビスタジオの講義用机であり、写真2はラジオ・スタジオの内部である。撮影用カメラはソニーの中型カメラ3台が使用されていて、モニタ室の多くの機器類もソニー製のものであった。

学長のDr. M. Qaziを表敬訪問した。われわれ日本の調査班用作業室を造れとの学長命令が

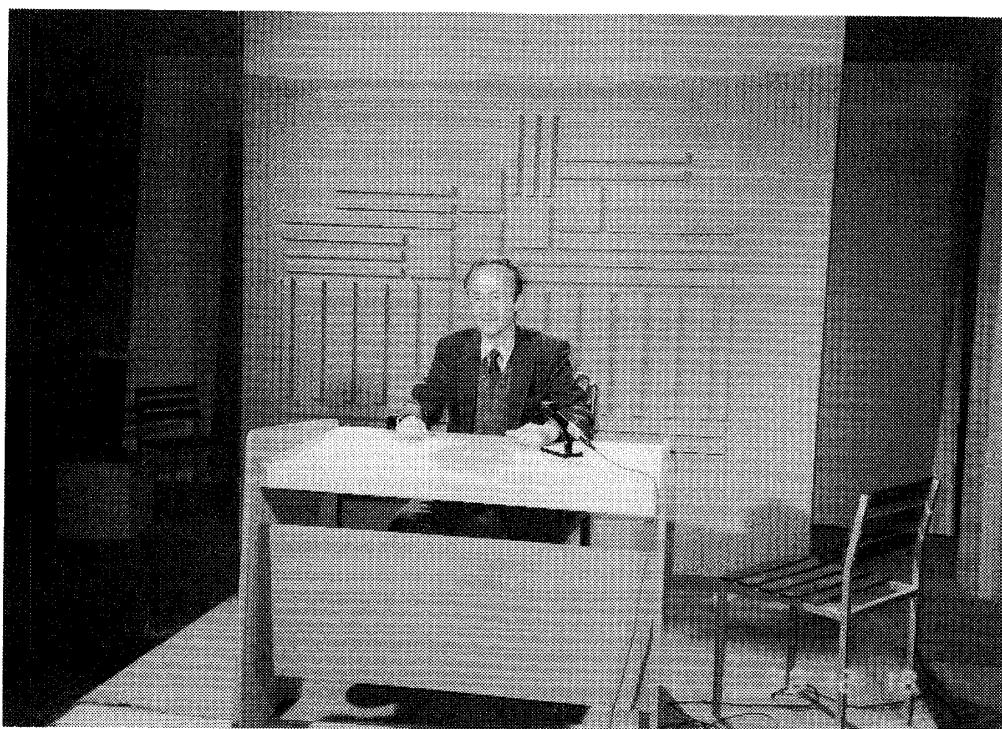


写真1 教育工学研究所のテレビ・スタジオ



写真2 教育工学研究所のラジオ・スタジオ

一言発せられた。その翌日にはジュータンとカーテンのない3階の一室には絨緞が引かれカーテンが取り付けられ、立派な研究室に変身していた。これは現地の人々の作業としては異例の速さであるといわねばならず、一日のうちに完了させるという大変見事な作業ぶりが拝見できた。

#### 4.5.1 通信教育・面接授業・チューターについて

学生に対する通信指導問題（アサインメント）は各学期4回送られ、試験は1回行われるという。チューターが行う通信指導問題の添削には、添削とともに学生がどのような本を読むべきであるとか、どのコースを履修したらよいかなど細かいコメントも与えてやるという。単位認定試験は日本の放送大学と同様で各地で一斉に行われる。ただし、自前の教室がないので、試験場は最寄りの大学や高等学校の教室を借りて行われる。

一人のチューターは1クラス数十人の学生を受け持ち、かなりの力を入れた指導を行っている様子である。チューターの資格は大学の教員を基本とするが、適当な大学教員が見つからない場合は高等学校の教員を頼むこともあるという。このようなわけで、今のところチューターの確保に困難なことはないという。パキスタンでは午後3時で仕事終了する。そのため AIOU の面接授業は原則的には午後3時以降に行われる。午後3時の仕事終了後に授業が始まるので学生にとっても受講しやすいし、チューターにとっても時間外の仕事として勤めやすく、さらにチューターの確保も容易であるとのことである。

工学系の高度な技術に関する授業科目はないが、テクニシャン向けの電気・機械の講義はある。また、実験や実習は工科系の大学の実験室を借りて行っているという。

#### 4.5.2 ラワールピンディ学習センターと学習現場訪問

AIOU のモデル学習センターであるラワールピンディ（RAWALPINDI）学習センターを訪問する。ここの学習センター（所長 Mr. M. Khan）は数人の教職員で構成され、所属学生数約1万人であるとのこと。この学習センターには写真3に示すように机のない教室が1教室あるのみである。

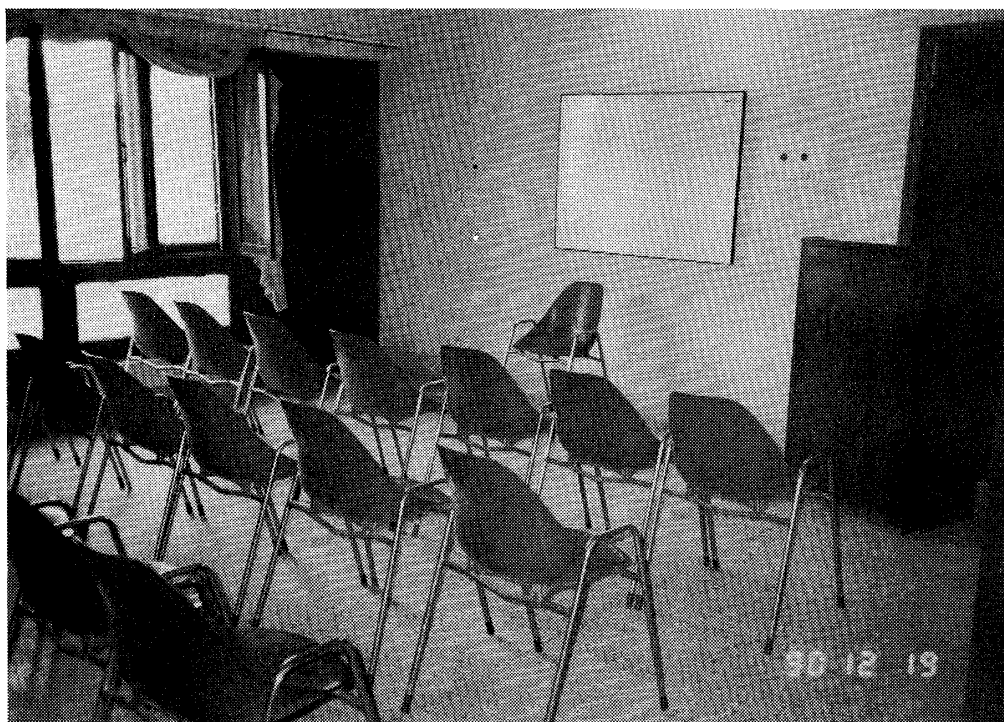


写真3 学習センターの面接授業教室

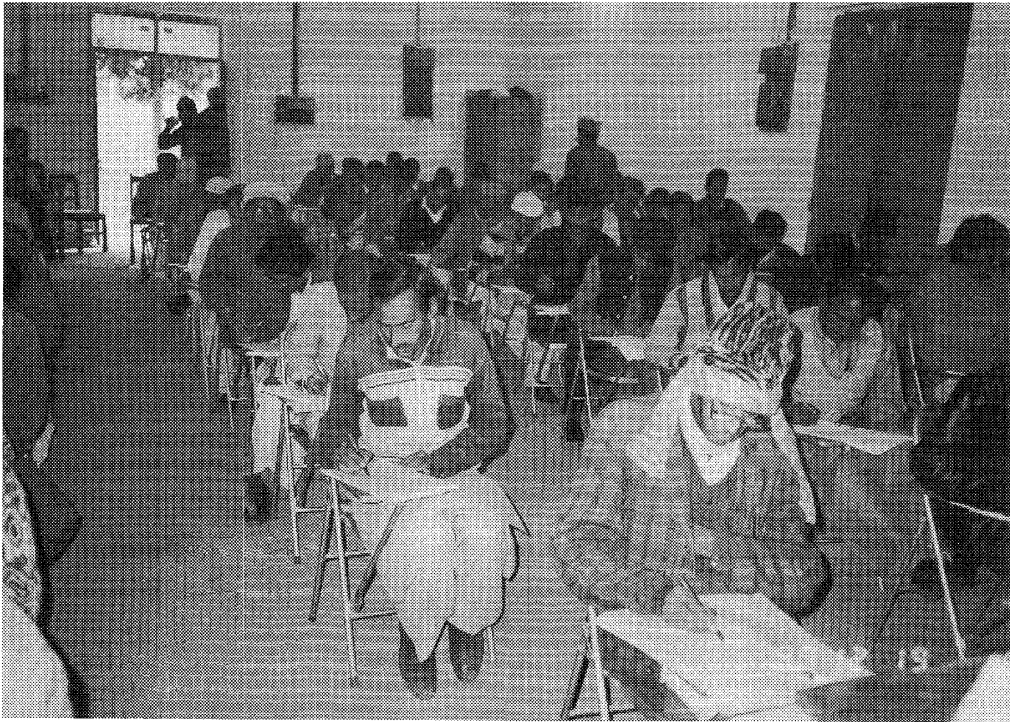


写真4 男子教員の試験風景

丁度、AIOUが行う教員に対する試験最終日とのことで、所長のカーンさんの案内で女性教員および男性教員の単位認定試験の実施現場の見学を行うことができた。まず最初は女性教員が試験を受けている試験会場を見学した。試験会場は高等学校である。電灯もなく薄暗い教室で56名の女子教員が3教室に分かれ一生懸命試験を受けていた。次に訪れたのがやはり1881年に創立されたという男子高等学校である。ここの教室では写真4に示すような格好で男子教員が試験を受けていた。

校庭ではこの学校の生徒である男子の10年生が英語の補習を受けていた。この学校の太っていて優しいような校長が直接生徒に英語の補習を行っていて、われわれにその補習目的を説明してくれた。それによると11～12年生は大学予科、13年生～17年生はカレッジおよび大学とのこと。こうした大学に入るための補習をしてあげているとのことであった。

次はラワールピンディ市図書館内で行われているAIOU学生のライブラリアン・コースの授業風景を見学する。ここでは図書館長とライブラリアン・コースのチューターが学生10名（内女性2名）に対し図書分類コードについての講義を行っていた。写真5はその時の授業風景である。

その後、AIOUの心理学面接授業風景を見学するため女子短期大学を訪れた。しかし、訪問予定時刻に若干遅れたため面接授業が終了した直後の訪問となった。数人の女子学生が残っていたのでその授業風景の雰囲気は味合うことができた。帰りがけに女子学生たちと正門まで歩いてくると、夫がバイクで迎えにきていて仲良くバイクに乗って家路についた女子学生がいたり、別の学生は母親が付き添いということで面接授業に同席していたのが印象的である。

最後は、夜学コースである。訪問したのは、商業カレッジでここで校長のMr. M. Afzaalに校長室で会う。その後タイプライター実習と速記コースが行われているうちのタイプライター実習風景を見学する。そこには約15名の学生が実習を受け、そのうち女性が3名おり旧式のタ





写真5 図書館分類学講義受講風景



写真6 タイプライターの実習授業

イプライターを一生懸命叩いていた。写真6はチューターから指導を受けている学生の実習風景である。こうした実習コースを履修する理由はよりよい職業につけるからとのことであった。この学校にはウルドゥ語の珍しいタイプライターがあり、タイプライター実習授業で使用するとのことであった。

#### 4.5.3 地域学習センター (KHARIAN AIOU) 訪問

訪問学習センター：ALLAMA IQBAL OPEN UNIVERSITY  
RCRC & R/COORDINATING OFFICE  
PINDI SULTAN PUR  
KHARIAN

訪問日：1990.12.20

訪問目的：① RCRC に関する機能、コース、方法論

② SUBHAN 村の女子コース学習の実態見学（人口問題教育コース）

③ KASANA 村の男子コース学習の実態見学（応急医療・救助コース）

カリアン (KHARIAN) 地区の RCRC & R / Coordinating Office はイスラマバードより約 150Km（車で約 3 時間）の距離にある。ここからさらに約 1 時間のドライブでソバーン (SUBHAN) 村、カサナ (KASANA) 村に到着する。

##### (1) ソバーン村の女子学習コース見学

これから訪問する 3 か所の村にはアバス夫人 (Mrs. Razia Abbas) があらかじめ我々が訪問するということを連絡しておいてくれた。ソバーン村へはジープで出かけた。というのはこの村への道は悪路で乗用車ではそこへ行くことが不可能であることが実際に行ってみて明らかになった。らくだや牛がすれ違う田舎道を走り、運河（川幅 50 メートル）の土手を走り、さらに運河から離れ悪路を走ること 1 時間でソバーン村へ到着した。

この村には 160 軒ほどの家があり、人口は 500 人～700 人とのことである。村には小学校すらない。従って子供達は一日中村の中を走り回って遊んでいる。こうしたこともあって、村人の多くは読み書きができないようである。

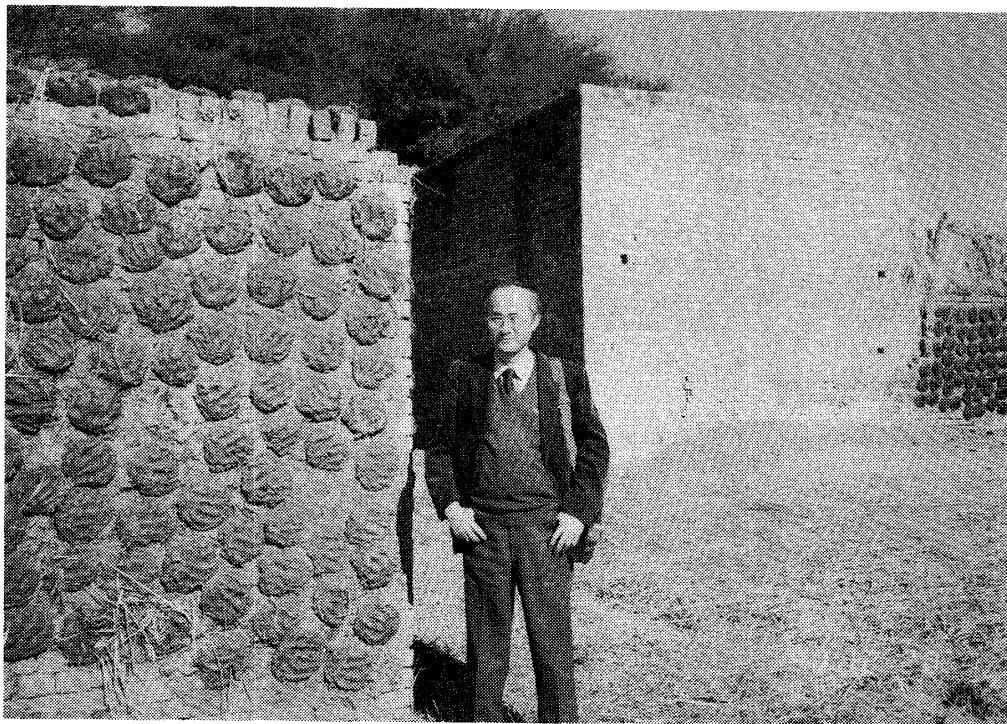


写真 7 燃料の牛糞

村の入り口には広い広場がある。この広場の乾燥した草原の上にジープを止める。日当りのよい農家の壁には牛の糞を大きなまんじゅう（直径15センチメートル）をつぶしたような格好で張り付け、その糞を太陽熱で乾燥させている光景が大変珍しい(写真7)。これは牛の糞を乾燥させそれを燃料として使用することである。

どこからともなくポッポッと焼き玉エンジンの音がする。それは干し草を細かく切る機械と粉引き臼の動力エンジンの排気煙突から出る音である。村の内部へ入る細い道は、両側が農家の塀に囲まれ生活用水が流れる悪路（道幅2メートル）である。道のところどころには石や丸太が置かれ、その上を渡り歩きながら学習活動が行われている一軒の農家へ近づいて行く。迷路のような道を5分程歩く。とある一軒の農家の庭先が女子コースの学習授業が行われる教室である。

図3に示すように教室といっても農家の庭先に並べられた板状の椅子しかない露天教室である。その並べられた椅子の前面にテープ・レコーダーと紙芝居のようなフリップ・チャートが全員よく見える位置に置かれてある。そのテープ・レコーダーとフリップ・チャートは AIOU が提供したものである。テープ・レコーダーの音声とフリップ・チャートの絵の内容とが一致している。このテープ・レコーダーを操作したり解説を加えたりするためのチーム・リーダがいる。また、もう一人グループ・サプライヤーという係の指導者がいる。チーム・リーダはフリップ・チャートをめくったりテープ・レコーダーを操作し、学習内容の解説と進行に努める。そして、質疑応答や討論の司会も行う。

学習者は全員女性で、その数約40人が図4に示すようにテープ・レコーダーとフリップ・チャートを前にして、テープの音声を聞きフリップ・チャートを眺めていた。学習の内容は人

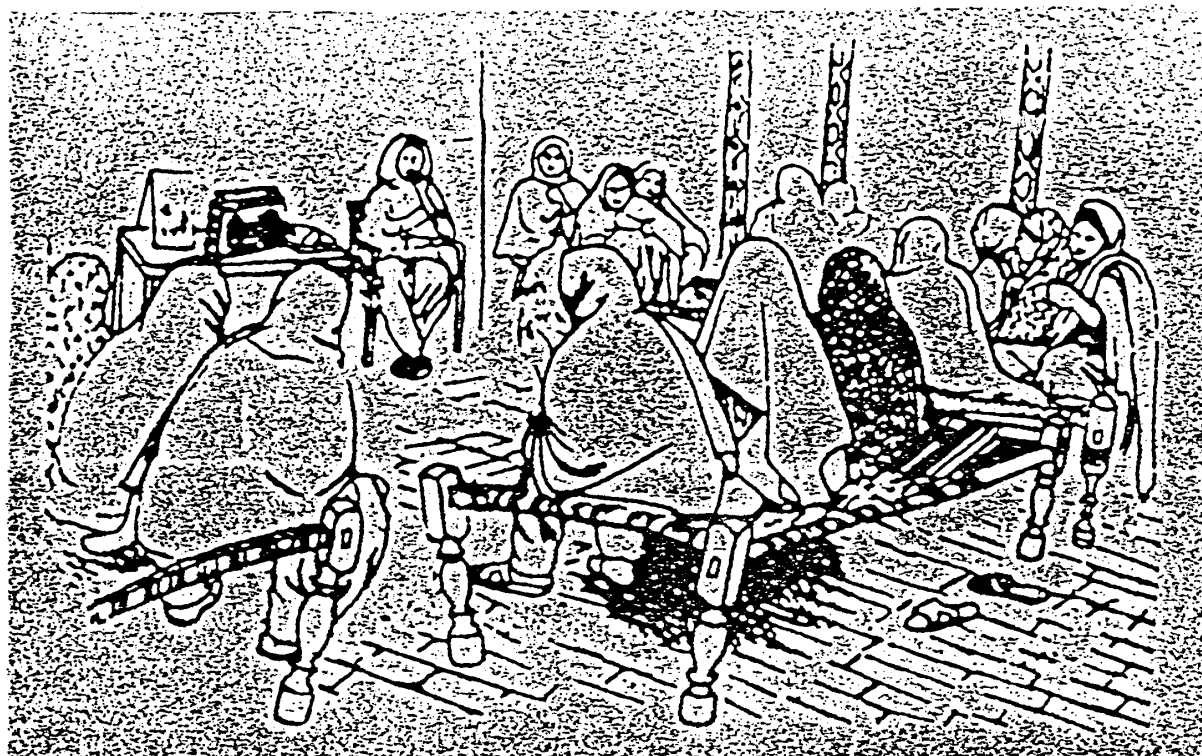


図3 女性の学習風景

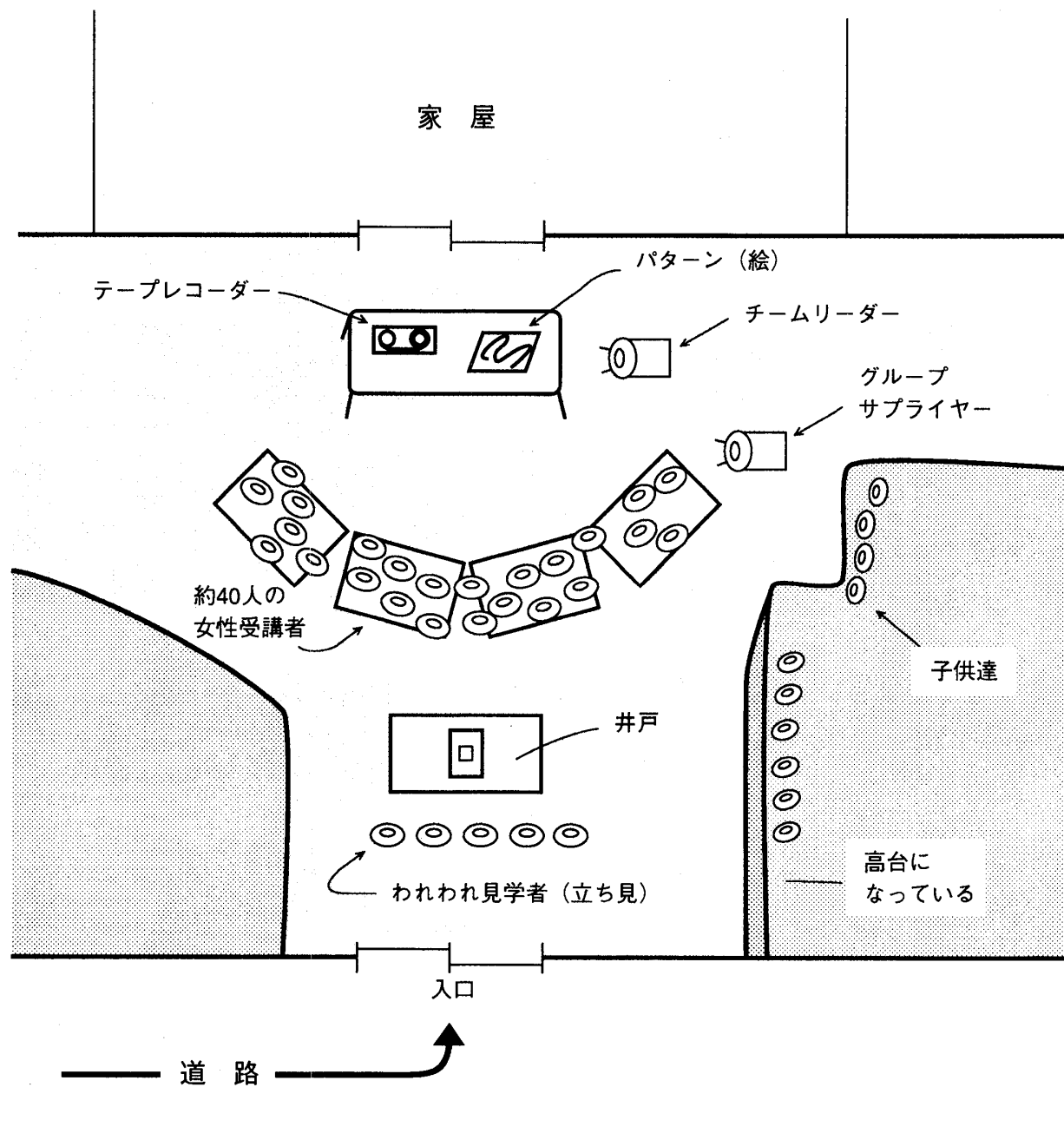


図4 ソバーン村の女性学習コースの屋外教室

口問題（産児制限）である。図に示したようにわれわれは後ろの方での見学が許された。しかし写真を撮ることは禁止されていた。ほんの20分ほど見学したら、彼女たちの夫から文句がでて早く立ち去れとのことである。一枚の写真も撮らずに、仕方なく女子コースの見学を終え次の男子コースが行われるカサナ村へ移動する。

## (2) カサナ村（男子コース）

女子の学習が行われたサバーン村よりジープで10分ほどのところに人口約2000人ほどのカサナ(KASANA)村がある。ここも、ソバーン村と同様に煉瓦造りの農家の塀に囲まれた狭くて



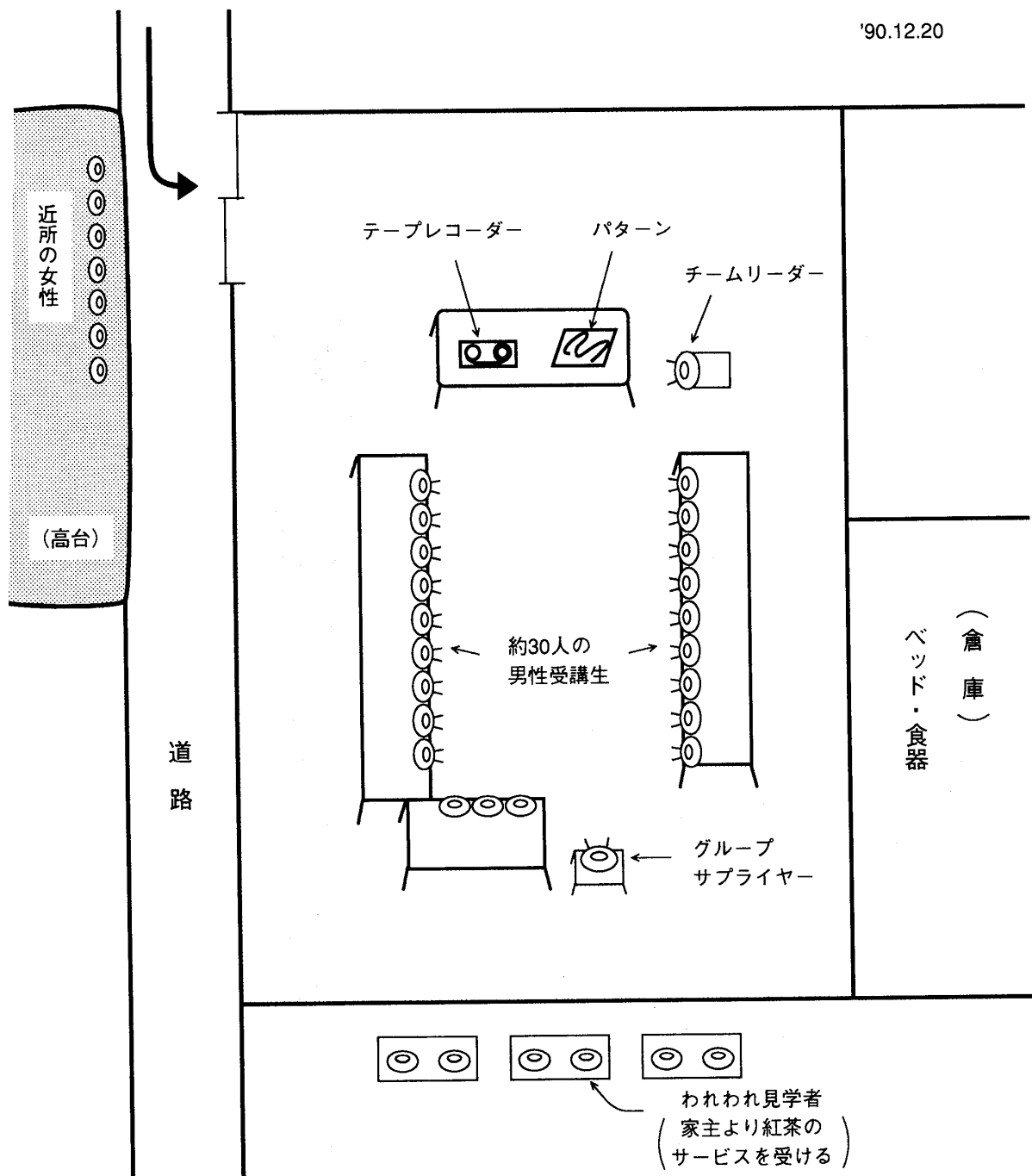


図5 カサナ村の男子学習コースの屋外教室

細い悪路を10分ほど歩く。一軒の大きな農家にたどり着く。すでに何人かの男性とわれわれの後を追ってきた近所の子供達とその農家に集まり授業が始まるのを待つ。

この農家は地元の有力者なのであろうか、あるいはこれが当たり前なのかは不明だが、家の中に沢山の磨き上げられた立派な食器皿や壺の類を日本で節句の時に飾る雛壇のように飾っている。これらの品物は嫁さん側が持ってくるとのこと。パキスタンの娘さんがお嫁に行く場合には大変な経済的苦労がありそうな気配が伺える

学習の進め方は女子コースと同様、テープ・レコーダとフリップ・チャートを前に約30人程

の村の男性が図5に示すように座り、テープ・レコーダからの音声を聞き、フリップ・チャートの絵を見入っていた。写真8は学習開始直前に我々調査団の視察目的をアバス夫人が説明しているところである。

学習内容は怪我や病気をした場合の救助・介護の方法で“FIRST AID”という題名であった。さすが男性コース、水煙草を回しのみをしながらのんびりとテープから流れ出る音声に耳を傾けていた。テープ・レコーダを時々止め説明を加えたりあるいは質問を受けたりしていた。われわれが訪問したからかも知れないが子供達が目立つほどに多い。女性達は遠方の屋根の上から学習中の男性コースを遠巻きに眺めている。こうした光景が見られたのは、われわれ珍客の訪問があったからであろうか。

以上、農村地域の女性コース、男性コースの学習現場を見学することができた。両コースとも村の有志が自主的に集まり、AIOUの教育設備・装置（テープ・レコーダ、フリップ・チャート）を借り、リーダーが音頭をとって熱心に勉強をしているという雰囲気が伺えた。こうしたコースが一か月のうちあちらの村こちらの村と日程を決めて行われているという。このような教育現場をAIOUの教員が順番に見回り指導を行っているとのことである。テープ・レコーダーはリーダーに責任を持たせて預けておくそうである。異なる科目の学習用テープと学習パターンは各村で行われる学習日程に従って運ばれ、それによっていろいろな学習が行われるようである。

### (3) サドワール村の女子リテラシー（識字）教育

カサナ村の近くにサドワール(SADWAL)村がある。このリテラシー教育現場を見学する。日本の畳十畳程の広さの部屋が教室である。床にはじゅうたんが敷いてあるが机はない。この教室に13歳～40歳までの女性約40人が図5に示すよう教室の床の上にびっしりと坐り授業を受けている。ここでは女性のチューターが直接生徒に学習指導を行っている。年齢は異なるが全



写真8 農村部男子の学習風景

'90.12.20

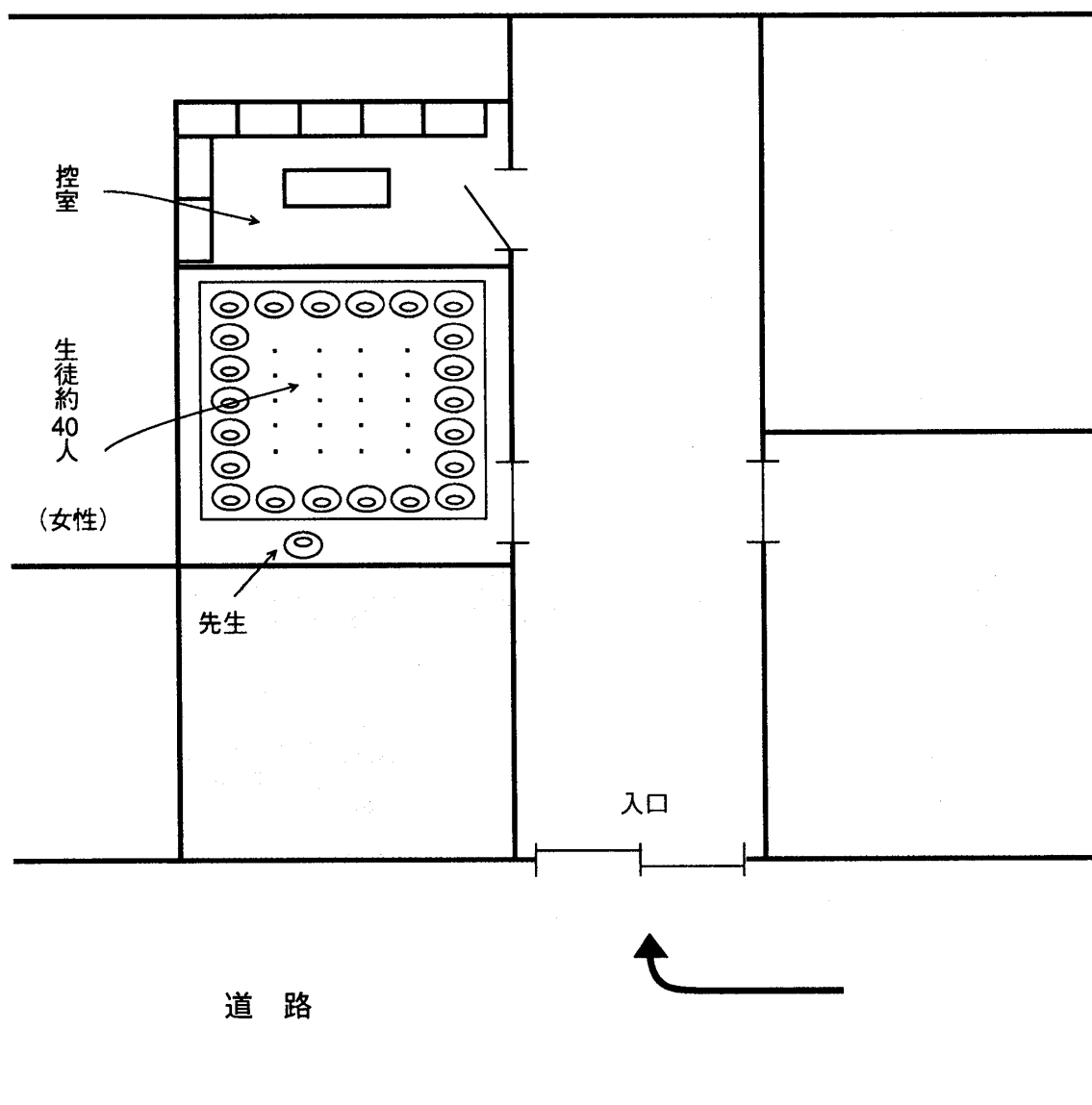


図6 サドワール村の女子識字教育の教室

て5年生であるとのこと。

女性ばかりの教室にわれわれ男性が入って見学できるかが問題であった。教室の隣の講師控え室のような場所でしばらく待つ。案内役のアバス夫人がわれわれ調査班のうちで最も年齢の高い人だけ入ってもよいと連絡にくる。小川団員がそれに該当するということでまず最初に教室に入る。しばらくしてからリーダの佐賀団員、ウルデウ語が話せる麻田団員に入室の許可がおりる。田代団員、岡田団員は控え室で待たされ、結局最後まで入室許可がおりず、この二人は女性ばかりのこのリテラシー教育現場を残念なことに見ることができなかった。

さて、授業の方は丁度入室した時が国語の授業時間であったようで、パキスタンの国語ウルドゥ語の読み方が行われていた。そのつぎに60割る48という割り算の計算を先生が生徒に質問していた。生徒は自分用の石版（A4程度のサイズ）に計算手順を書き、できると黙って手を上げる。一番最初に手を上げた生徒が立ち上がり石版を先生の方に見せ答えを確認してもらう。

その答えが合うと良くできたと誉められる。生徒一同出来た生徒に大きな拍手をおくる。拍手をおくられた生徒は照れる。こうして二番目にできた生徒が手を上げ、それが間違っていると先生は訂正してやる。最後にコーランの暗記状況を確認するテストが行われる。40歳ぐらいの年をとった女生徒が立ち上がり、コーランの暗記ができているかどうか確認するためそれを口に出して言う。

こうした授業風景はわれわれのために実演してくれたようだ。最後にアバス夫人が挨拶する。内容はこうだ。「中央の偉い人が卒業証書を与えます。BA まで進むことができればそれは神様のお恵みで、大変喜ばしいことであります。5年生を終えるとさらに上級学級へ、つまり中学校へ進学できます。しかし、この近くに中学校ができればそこへ入れます。しかし、国の予算が不足してできないようなら、6年生になってからも今のままここでこうして勉強します。」と。

このリテラシー教育の先生の給料は、一日3時間ではあるが、何と一月100ルピー、日本円にして600円とのこと。リテラシー教育の難しさの例としてつぎのようなことを聞かされた。なぜ読み書きが大切かを村人に説明する。手紙が書ければ遠くの親戚、親、兄弟と連絡が取れるのではないかと。しかし、村人は「私は、手紙を書かずに出向いて行った方がよいから読み書きはいらない」という。産児制限の必要性を説くと「昔からの風習で神様からの恵みだからいままで通りでよい」という。このようなわけでリテラシー教育は大変難しいと中央の関係者は強調していた。

農村部の遠隔教育実態調査を終えてから、イスラマバード市内の第5小学校において日本剣玉協会会員である小川団員が文化使節の役割を演じた。この日、小学校に到着すると児童達の鼓笛隊に迎えられ、大歓迎であった。写真9、10は、学童の前で剣玉遊びの演示と指導を行っ



写真9 剣玉による文化交流

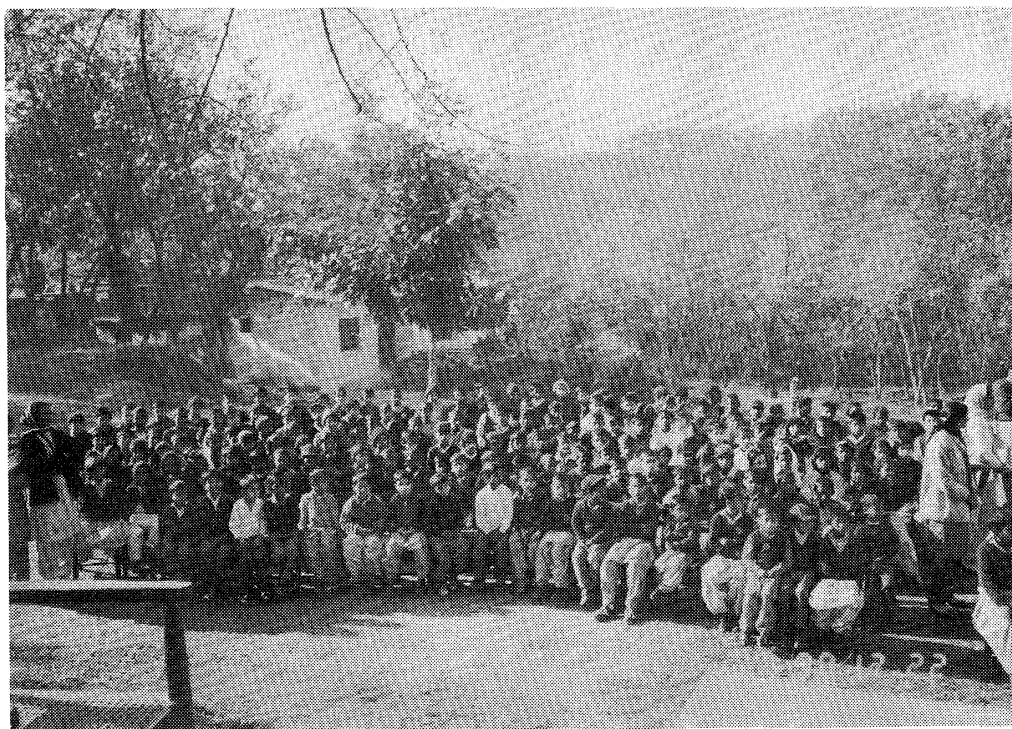


写真10 剣玉による文化交流

ている様子である。この他にも女性教師達には折り紙の折り方の指導も行い、日本とパキスタンの文化交流の役割の一端？も果たして、予定通り無事帰国した。